

平成 29 年 7 月 6 日

## 第 91 回

### 感染症健康危険情報評価検討会および

### 生物学的製剤に由来する感染症情報収集検討委員会 報告

平成 29 年 6 月 1 日から平成 29 年 7 月 5 日までの間に収集された情報について、平成 29 年 7 月 6 日に上記委員会を開催し検討した結果、別紙の情報 1 件について注意喚起のため、関係部署に対し情報提供が必要であると判断した。

(生物学的製剤に由来する感染症情報収集事務局まとめ)

雑誌名 (巻・号)	Emerging Infectious Diseases
ページ	Vol. 23, No. 3, March 2017
論文タイトル	Three Cases of Neurologic Syndrome Caused by Donor-Derived Microsporidiosis
(和訳)	ドナー由来の微胞子虫症による神経疾患症候群の3例
著者	Rachel M. Smith et al.
要旨	<p>2014年米国において1名の腎移植患者が種々の神経症状を呈し死亡した。移植による感染事例として調査した結果、一人のドナーの腎臓等4つの臓器が、死亡した患者を含む3名の患者に移植されていた。<i>Encephalitozoon cunicuri</i> が腎移植患者の神経組織あるいは移植腎組織よりPCRで検出され、2名の患者では尿PCRで<i>E.cunicuri</i> が陽性であった。移植患者に消化器症状は無かった。ドナー血清が<i>E.cunicuri</i> 抗体陽性で、同一ドナーからの感染であることが示された。臨床医は臓器移植患者が、消化器症状を呈さず、不明脳炎を発症した場合、ドナー由来の微胞子虫感染の可能性も考慮すべきであると指摘している。</p>
コメント	<p>微胞子虫 <i>E. cunicuri</i> の感染は、AIDS患者を除けば稀とされてきたが、近年臓器移植感染例の報告が見られ、死亡例もあり注意を要すべきと考えられる。本研究ではシーケンスによる病原体の同定は行われていないが、発症がほぼ同時期であることからドナー由来の移植感染例と考えられた。<i>E.cunicuri</i> の、移植に際した感染リスクを想定することは現状で一般的ではない。従って移植後の対応として、本研究で指摘するような消化器症状のない脳炎といった臨床的特徴を早期診断に結びつけることが重要と考えられる。また脳、腎臓等の生検を要せず尿検査で病原体検出が可能な点は、技術的に早期診断を促すものであり、臨床医、移植医療関係者に周知されるべきと思われる。</p>
評価	B (参考情報/本省報告)